

コラム谷戸の風 第3集

子どもたちに「町田の自然を知ってもらいたい」(T. H)

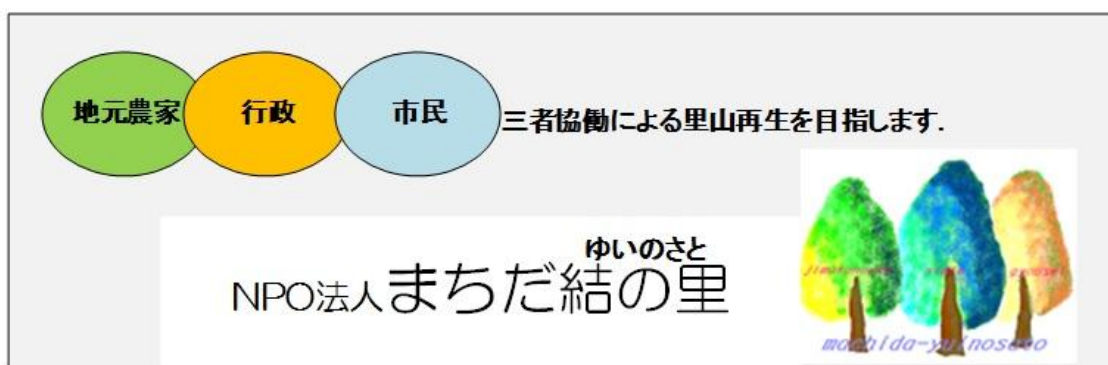
2017年1月14日に、町田第三中学から生徒、先生、家族等計13名が「里山体験」で「奈良ばい谷戸」を訪れました。



「里山体験」の事業とはどのような経緯で開催される事になったのか？を皆様へお伝えしたく筆を取ります。

私は、今から十数年近く前に「環境問題」へ頭を突っ込む事になり、今の自分が在ります。

それは、まちだ市民大学の「まちの暮らしと環境」講座の「川問題」の受講や、一人で市内の湧水調査で歩き回った谷戸山の自然に感動する機会



や、さまざまな活動との出会いでした。

その中で、私の中に有る思いが芽生えてきたのです。

それは「18歳まで生まれ育った片田舎の山形」よりも、「田舎風の町田の谷戸山」（町田出身の方には失礼な表現ですが）・・・「ここにかかわりたい！」「この風景をあとに残したい！」と強く想う様になりました。

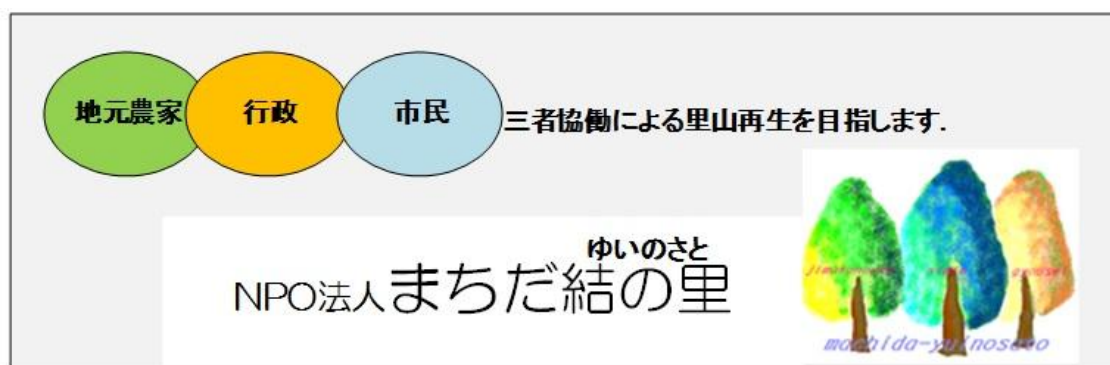
2009年、当時町田第三中学校の校長先生は、滝の沢源流の自然を生かした「環境教育」と美術館と連携した「情操教育」を始めようと考え、自然に親しみ環境を大事にする生徒、芸術文化に親しみ美的感覚の豊かな生徒に育てて欲しいとの願いで、私を環境教育担当のスクールボード理事（*1）に推薦してくれました。

手始めに夏休みに、滝の沢源流公園から始まるわさび沢川（恩田川の支流の一つ）の湧水調査を始め、校長先生との話し合いで「もっと、子どもたちに町田の自然を知ってもらおう！」と12月小野路の里山を訪ねました。これをきっかけに毎年1月「里山歩き」を皆さんのご協力の下、行う様になりました。

翌年からは1月の里山歩き、6月万松寺でのホタルの観察会、8月わさび沢川湧水調査・カワニナの保護育成、2011年には万松寺で田植え・稲刈り、1月餅つき（学校で）が加わりました。

2013年6月からはA副理事長さんとの話をきっかけに、学区内にある児童養護福祉施設「精舎児童学園」の「里山体験」も始めることが出来ました。

一人でも多くの子供たちが自然の中で遊び、自然と触れ合うことにより、「自然とは何か？」「自然を大事にしよう！」との思いが芽生えることを



期待しております。

「キラリ☆まちだ」等のイベント以外でも「まちだ結の里」は、子供たちを受け入れ「町田の自然に親しむ機会を作っている！」と多くの市民の皆さんへ発信していくべきとも思っております。

皆様のご協力なしでは出来ない「里山体験」です。これからも、子どもたちの為に宜しく願いたします。

<追記>校長先生が変わられ、町田第三中学の「環境教育」から田植え・稲刈り・餅つきが、今はなくなっております。

<*1補足>

スクールボード理事とは、なじみが薄いと思いますので、補足説明します。

「町田市立学校支援地域理事」が正式名称で町田市では、2009年4月に初年度小中校25校が指定され、2011年までに市内全小中校の理事が誕生しています。

理事の身分：地方公務員、非常勤の特別職

理事の役割：学校ごとに理事の人数、役割に違いがあります。

学校支援ボランティア、学校運営推進協議会、PTA、保護者の会等と連携し、保護者や市民への対応が困難な状況が生じた場合、必要に応じて、学校の管理職とともに対応するなどして学校を支援することも役割となっています。

ちなみに T.H の町田第三中学での役割は、「町田の自然を生徒たちに紹介することです。

